

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	田辺市立会津小学校	亀井 陽一
学校所在地		
〒646-0004 和歌山県田辺市下万呂59-1 Tel 0739(22)1164 fax 0739(22)6372 e-mail aizu-ps@citrus.ocn.ne.jp		
担当者名		役職名・担当教科
山中 大祐		教諭・6年生担任
<p>〔学校の概要〕</p> <p>当校は田辺市街地から北東部にあり、虎が峰や高尾山・槇山のやまなみを源として流れる右会津川と左会津川の合流点近くに位置し、この2つの支流に沿った秋津・万呂の2町が校区となっている。当地は縄文時代の歴史遺産が多く、また熊野古道が通っているため、古くから人々の往来も盛んであった。本校の児童は、昭和40年代より漸増したが、田辺東部小学校の新設や校区の変更などにより、現在は500名前後で推移している。</p> <p>本年度の学級数は支援学級も含め20学級で田辺市内においては規模の大きな学校となっているが、児童は全体的に明るく素直で、落ち着いた生活を送っている。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 6年生 85名	職員 5名	教室・図書室・ラーニングスペース・熊野古道
実践研究テーマ		
地域と共に生きる子どもの育成 ～世界遺産 熊野古道を地域に発信しよう～		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	伝えよう世界遺産	
<p>〔キーワード〕 世界遺産学習・熊野古道・情報活用能力</p>		
<p>〔単元目標〕</p> <p>○世界遺産に登録されてから15年を迎えた「紀伊山地の霊場と参詣道」について、歴史的意義を調べ考えることにより、自分達がこの世界遺産の継承者であるという意識をもち、これからの行うべき課題を発見することができる。 (課題発見力)</p> <p>○学習したことを地域に発信するための効果的な方法を考え、分かりやすく適切に伝えることができる。 (コミュニケーション力)</p> <p>○調べ学習や体験学習等を通して、自分達が住んでいる地域のすばらしさを知り、郷土田辺を誇りに思い、この自然や文化を大切に、これを後世に伝えていこうとする意識を高める。(自らの生き方を考える力)</p>		
<p>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</p> <p>全体 30時間 （「伝えよう世界遺産」）</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <p>和歌山県世界遺産センター ・ ・ ・ 世界遺産入門・次世代育成事業（現地学習）</p>		

実践校に関する事項			
〔単元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	1. 熊野古道に関する記事を導入に使用し、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について調べる。	・世界遺産センターのホームページ等 ・講師を招く。(浅利耕一郎さん)	ワークシート・発言 (課題発見力) (コミュニケーション力)
2	2. 地域を通る熊野古道について調べる。 3. 現地学習をする。 (秋津王子跡・万呂王子跡・須佐神社・谷野地蔵・奈目良地蔵)	・講師を招く。(浅利耕一郎さん) ・実際に現地を見学することにより、熊野古道を身近なものとする。	ワークシート・発言 (課題発見力) (コミュニケーション力)
3	6. 世界遺産及び世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に関する理解を深める。 7. 熊野古道ウォークを行う。	・和歌山県世界遺産センターを訪ね、世界遺産についての学習を行った後に、世界遺産に登録されている熊野古道を歩く。	ワークシート・発言 (コミュニケーション力) (自らの生き方を考える力)
4	8. 国語科とのリンクにより、ガイドブックやポスター、リーフレット、パンフレット、紹介動画から発信方法を自分で選択し、作成する。	・タブレットで撮った画像を、効果的に活用させる。 ・調べたことをまとめるだけでなく、聞き取りや収穫体験・古道ウォーク等の体験から学んだことや考えたことも掲載させる。	ガイドブック ワークシート (コミュニケーション力) (自らの生き方を考える力)
5	9. 総合的な学習の時間のまとめとして、1年間に学習したことを参観日に保護者に伝える。 10. 田辺市観光センター、和歌山県世界遺産センター、en+等に成果物を置いてもらい、地域に発信する。	・ともに生きると題して発表会を行う。 (テーマは以下の3つ) 世界遺産(紀伊山地の霊場と熊野古道) 福祉学習(高齢者福祉) 防災学習(災害から身を守るために)	・まとめプリント ・発表内容
〔単元学習の成果と課題〕			
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区にある熊野古道は、地域の人々にも余り知られていないことに気付き、自分達が守り語り継いでいかなければならないことを自覚することができた。 ・学習したことを伝えるための効果的な方法として、ガイドブック作りに取り組むことにより、情報提供する側の工夫や苦勞を体験することができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな発信方法を作成、および保護者への発表会を学習のまとめとしたが、自分達が地域に働きかけるところまでは実施できなかった。校区に存在した「秋津王子」「万呂王子」をいかに後世に伝えていくかということがさらなる課題となる。 			
〔世界遺産学習の効果〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について調べることにより、世界遺産について興味・関心を持つようになった。 ・世界遺産に関わる人の思いに触れたり、身近な熊野古道を歩いたりすることにより、和歌山県のすばらしさを知り、郷土和歌山を誇りに思い、この自然や文化を大切にしていこうという意識を高めることができた。 ・闘鶏神社等が世界遺産に追加されたということを知るとともに、世界には世界遺産登録をはずされる遺産があるということを知り、自分達がこの世界遺産を守り、後世に伝えて行かなければならないという意識を高めることができた。 			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・この学習は「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産登録から20年を迎えるということもあり、今年はこの世界遺産学習を総合的な学習の時間に組み込み実施してきたが、単発的な取り組みに終わるのではなく継続的な取り組みとして位置づけていく必要がある。 			

様式 2

令和5年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]



場所：会津小学校 多目的ホール

日 付：令和5年11月2日（木）

コメント：熊野古道が世界遺産になるまでに関わっていた浅利耕一郎さんを講師として会津小学校にお招きし、世界遺産について、熊野古道が世界遺産になるまで、熊野古道の歴史などについての講義を受けた。それをもとに、子供たちはさらに学びを深めることができた。



フィールド：世界遺産センター

日 付：令和5年11月7日（火）

コメント：和歌山県世界遺産センターにて世界遺産についての学習を行った。自分たちの住んでいる和歌山県だけではなく、世界の自然や文化遺産を知るとともに、世界遺産登録を取り消されている遺産がある事を知り、もうすぐ世界遺産登録20年を迎える「紀伊山地の霊場と参詣道」をしっかりと守っていく必要があるということを知った。



フィールド：熊野古道中辺路

（伏拝王子～熊野本宮大社）

日 付：令和5年11月7日（火）

コメント：「伏拝王子～熊野本宮大社」までの熊野古道ウォークを行った。古道には道普請により整備された箇所が何カ所もあり、この遺産を守って行くことの大切さを体感するとともに、海外から来た多くの方々と出会うことにより、世界の遺産であるという思いを強くした。また、インタビューも行うことができた。さらにこの自分達の校区にある「秋津王子・万呂王子」も後世に語り継いでいかなければならないという意識を高めることができた。